

特殊報

平成 30 年 7 月 17 日

平成 30 年度病害虫発生予察特殊報 第 2 号

1. 病害虫名 スモモ斑入果病

病原体 ホップ矮化ウイルス (*Hop stunt viroid*: HSVd)

2. 対象作物 スモモ

3. 特殊報の内容 本県における初発生を確認

4. 発生地域 奈良県南部地域

5. 発生確認の経緯

- 平成 30 年 6 月下旬に奈良県南部地域のスモモ圃場において、‘大石早生’果実に斑入り模様の症状を確認しました。
- 奈良県病害虫防除所において実施した RT-PCR およびシーケンス解析により、ホップ矮化ウイルス (HSVd) の感染を確認し、スモモ斑入果病であることが判明しました。

6. 国内での発生状況

- 本病は昭和 60 年に山梨県で初めて発生が報告され、その後、福島県、福岡県、島根県、長崎県、埼玉県でも発生が確認されています。

7. 病徴

- 症状は果実のみ認められ、葉や新梢には発生しない。病徴は品種によって異なり、‘大石早生’、‘太陽’、‘サンクローザ’等の品種では果実表面が斑入果症状となり、完熟するとやや不鮮明となるものの、果粉の形成は薄くまだらとなります。熟期はいずれの品種でも健全果より 7~10 日ほど遅れ、果肉は締まり、軟化が遅れるとされています。

8. 病原体と伝染

- 病原ウイルスは、約 300 塩基の環状 1 本鎖 RNA であり、主に感染樹からの採穂、接木によって伝染する。
- 剪定はさみ等の刃物を使用する管理作業によっても汁液感染が起こります。

9. 防除対策

- 健全苗を使用する。
- 発病園からは穂木を採取しない。
- 剪定はさみは塩素系漂白剤（次亜塩素酸ナトリウム含有）の消毒液に 10 秒間浸漬し、水洗し

て用います。



写真 スモモ斑入果病の症状

●お問い合わせは

奈良県病害虫防除所 TEL. 0744-47-4481

●その他の情報

病害虫防除所ホームページ <http://www.jppn.np.jp/nara/>

奈良県農業情報システム（農作物病害虫・雑草防除指導指針）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/nara>